

## 平成30年度第1回倉敷市男女共同参画審議会議事要旨

- 【日時】 平成31年1月31日(木) 午後2時～4時  
【会場】 倉敷市消防局4階 講堂  
【出席委員】 委員14名(欠席6名)  
【事務局】 市民局長, 人権政策部長, 男女共同参画課長及び同課職員, 男女共同参画推進センター  
所長  
【傍聴人】 なし  
【報道】 なし

### 審議会次第

- 1 委嘱状交付(下山市民局長)
- 2 開会
- 3 あいさつ(下山市民局長)
- 4 委員自己紹介
- 5 事務局説明  
(1) 男女共同参画課, 男女共同参画推進センターの概要について
- 6 報告  
(1) 平成29年度「くらしきハーモニープラン～第三次倉敷市男女共同参画基本計画～」の  
実績報告について  
(2) 平成30年度「くらしきハーモニープラン～第三次倉敷市男女共同参画基本計画～」の  
実施計画について  
(3) 倉敷市における男女共同参画の視点からの避難所運営について  
(4) 「企業成長の鍵を握る!働き方セミナー」の開催について  
(5) その他
- 7 閉会

### 会議要旨

(◎会長, ◇副会長, ○委員, ●事務局)

●出席委員は過半数に達しており, 倉敷市男女共同参画条例第31条第2項の規定により会議成立。

——以下, 会長により議事進行——

- 5 事務局説明  
(1) 男女共同参画課, 男女共同参画推進センターの概要について
- 会議資料P1～P7, 添付資料に基づき, 事務局説明。

◎ただいまの説明について質問、意見はあるか。

○平成29年度にウィズアップくらしきを初めて利用した人の比率は。

- 年度ごとの利用者の人数は集計しているが、利用者の利用回数は集計していないため分からない。登録団体については、平成30年度1団体増えた。有料の貸館利用、会社の説明会や会議等の利用が増えているように感じている。

○DVやデートDVの防止は大事なテーマの1つだと思うが、緊急一時保護の件数とか、ウィズアップくらしきのDV相談件数について、どう考えているのか。

- DV被害者の保護に関して、相談窓口の周知についてはまだ行き届いてないところがある。2年前には県立大学の学生さんに協力いただき、チラシを作成し、DVには身体的・精神的・経済的など様々な種類の暴力があるという啓発と、相談窓口の周知に努めた。その結果少しずつではあるが相談件数も増えてきている。ただし、緊急一時保護が必要な案件は実績の件数より多いと思うが、相談窓口に緊急一時保護を求めてくる件数は、まだ少ないため、今後も周知にできるだけ力を入れていきたい。また、高梁川流域の関係で7市3町と連携を取りながら、広域的支援についても、力を入れていきたい。

## 6 報告

- (1) 平成29年度「くらしきハーモニープラン～第三次倉敷市男女共同参画基本計画～」の実績報告について
- (2) 平成30年度「くらしきハーモニープラン～第三次倉敷市男女共同参画基本計画～」の実施計画について

- 別添ハーモニープラン実績報告書、実施計画書、会議資料P8～P9に基づき、事務局説明。

◎ただいまの説明について質問、意見はあるか。

○認定制度について、受賞した事業所が18社と増えてきているが、認定事業所業の取り組みをもう少しPRし、知って貰う機会を増やすことにより、他の事業所にも取り組みが浸透していくのではないか。

- 取り組み事例の発表の場をもうけることは、今後考えていきたい。また、認定事業所の取り組みについても、色々な機会を通してPRしていきたい。

○市職員の女性管理職比率の指標があるが、市職員全体の男女比率の割合は。

- 新規採用については、ほぼ同数と聞いている。40歳以上に限れば、女性は3割程度である。

○40歳以上のうち、女性は25%程度が管理職になっているのか。

- 国の発表では、課長級以上を管理職としているようだが、倉敷市の場合は係長級以上を管理職として区分分けしており、40歳以上というわけではない。35歳前後から係長級へ昇格している。

- 女性管理職を増やすために、女性が管理職になりやすいような環境は整えているのか。また、残業が増え、ワーク・ライフ・バランスが崩れることはないのか。
- 職員を対象とした研修において、ワーク・ライフ・バランスや女性のキャリア形成、女性管理職の意識改革といった内容の研修を行っている。産休・育休に入る女性職員については、人事課から制度の説明等も行っている。特に職場の意識改革が重要であると考えており、研修に力を入れているのが現状である。
  
- 待機児童の解消について、学校現場では産休・育休を終えて復帰しようとする先生がいるが、保育所の決定が遅いため、自宅より遠い保育所になった場合、時短勤務を行わなければならない、学校の人事にも影響が出ている。フルタイムで働く場合などは保育所の決定を考慮してもらいたい。
- 担当課に伺った内容を伝える。
  
- パートナーシップ向上セミナーを受講された方について、受講することによりどのような効果があり、取り組みをされているのか。
- セミナーの修了生には人材バンクに登録していただき、市の各審議会へ女性の候補者として紹介させて頂いている。また、セミナーの修了生の中にはセンターの登録団体に登録して頂き、団体を啓発事業を行っている方もいる。
  
- 市内中学校のうち、校長先生は26校中女性は2名でここ数年増えていない。中学校の職場でも、女性が増えてきているが女性管理職の登用が低い。これは女性自身も管理職になるといった意識改革が重要であり、職場の中でも、男性女性関係なく仕事を行うという意識改革を進めていかないことには、現状のままで、男女共同参画は何も変わらない。
  
- 目標値の設定について、項目の中で目標値が高すぎるものがあるのではないかと。目標設定当時から状況は変わり、目標値の修正が必要ではないのか。具体的には、理念としては良いと思うが待機児童数は現実的には難しいのではないかと。
- 各項目の目標値は、市の最上位計画である第6次総合計画や各担当課が設定している目標値を使用しており、数値を動かすことは困難だが、この数値は各審議会等で努力値ということで高く設定することもあると聞いている。今後、第6次総合計画、第三次倉敷市男女共同参画基本計画が平成32年度で終了するので、新たに計画策定に入った折には、ある程度達成可能な数値設定で策定作業を行いたい。関係各部署にもその旨伝えたい。
  
- 5年計画で事業を実施していると思うが、毎年実施内容が変わってない項目が多々見られる。項目によっては1年ごとに施策のやり方を変えとか、修正しながら行った方が良いのではないかと。
- 評価指標について各部署の事業レベルでは、目標未達の場合、改善策の検討等を実施しているが、その上の施策や評価指標のレベルでは分析が甘い部分もあり、今後検討したい。

(3) 倉敷市における男女共同参画の視点からの避難所運営について

●会議資料P10～P14に基づき、事務局説明。

◎ただいまの説明について質問、意見はあるか。

○災害時の避難所への対応は非常に大変だったと思う。災害が起きた場合、避難所での性暴力、DVのリスクが高まる傾向にあるという認識で、チラシや相談カードを配ったり、配置したとのことだが、今回のような非常時にはもう一步踏み込んで避難所に相談窓口をもうけるようなことは出来なかったのか。今後検討をお願いしたい。

●避難所に相談窓口を設置できなかったことは、反省している。各避難所に保健師が巡回していた際には、そうした相談も受けた旨も聞いている。今後南海トラフ地震の発生も想定される中、体制について検討していきたい。

○職員も限られているなか、避難所での対応について、保健師などとの連携も含めて考えて貰いたい。

●今後活かしていきたい。

○避難所運営について、新聞等の報道でも大変だったことが伺える。先日男女共同参画の視点からの地域防災についてのセミナーに参加した際に、避難所では女性が困ることが多いとの話があった。また、日ごろから防災活動に女性が参加することや、リーダーを育てることの必要性を感じた。今後、防災の講座などで、男女共同参画の視点からの内容についても、PRする機会をつくって貰いたい。

●今後検討していきたい。

○私は、実際の避難者だが、当日自分の避難所はすぐに一杯になり、実際の避難所ではない場所に避難していた。そのため、翌日には水島の小学校に移動させられ、家は浸かっているのにその後の片付けとか困ると思った。当時を振り返ると被災者はもちろんのこと、市の職員さんも何を聞いても答えてもらえず、みんな初めてのことで、パニックになっていたように思う。今日こうして説明してもらえ、当時の様子もわかり良かった。

○人権擁護委員の方の中に、総社の下原地区で被災された方がおられて、その地区は100年前の災害を教訓に防災組織をつくり、年に何回か会合をした際に、災害時の役割などを決めていたそう。地域ごと、特にその地区の町内会のリーダー、町内会長さんなどに防災講座への参加を呼びかける働きかけが大事なのではないかと思う。もちろん、住民として女性、子供も含め多方面に渡っての防災組織づくりが、各地域に必要ではないか。

●今回の災害を通じて、自主防災組織の重要性を感じている。男女共同参画課としても、防災危機管理室と連携をとりながら、今後できることを考えていきたい。

(4)「企業成長の鍵を握る！働き方改革セミナー」の開催について

●次第5報告の中でチラシに基づき、事務局説明。

(5) その他

●配布チラシ等に基づき、事務局説明。

◎ただいまの説明について質問、意見はあるか。

◎2年間委員として、審議会に参加し色々なことを考えた。様々な講座などに参加する方は、男女共同参画についての意識は高まると思うが、そうでない方はなかなか難しいと思う。資料で配られたチラシの「考えてみませんかその表現」はとても分かりやすい内容で、講座に参加できない人でも男女共同参画の概念は伝わり、効果は大きいと思うので、できれば回覧等で周知して貰いたい。

●検討する。

◎活発に御意見を頂いた。事務局には、今回頂いた助言やアドバイスは精査して頂き、次回報告して貰いたい。皆様におかれましては、円滑な議事進行への協力に感謝する。

——説明・報告事項終了——

◇閉会挨拶

男女共同参画を進める手立てとしては、意識改革とワーク・ライフ・バランスが特に重要と感じており、今回審議会で聞いた内容は、今後に役立てたいと思っている。委員の皆様におかれても、それぞれのコミュニティの場において活躍され、男女共同参画が進んで行けば良いと思う。

以上

会長

宇達 励人

副会長

山本 愛子

